

## 平成28年度 学校関係者評価のまとめ

### 1 教育理念・目標

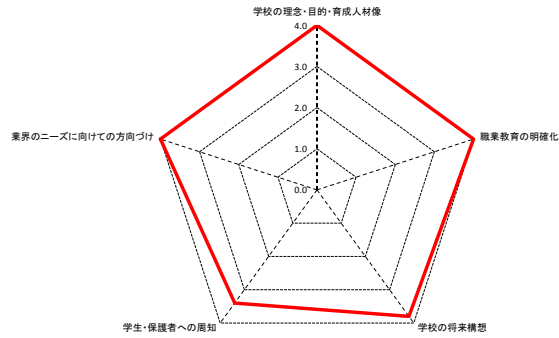
	4	3	2	1	平均
学校の理念・目的・育成人材像	5	0	0	0	4.0
職業教育の明確化	5	0	0	0	4.0
学校の将来構想	4	1	0	0	3.8
学生・保護者への周知	2	3	0	0	3.4
業界のニーズに向けての方向づけ	5	0	0	0	4.0

#### ・委員による意見

- 学生、保護者等への周知は直接的な働きかけはもとより、伝聞情報も大きな要素となると思われます。今後も幅広く広報活動を含め進められることを祈念します。
- 素晴らしい開学からの理念が効果的に広報されることで、在学生在が創路専門学校に誇りを持てると思います。

#### ・改善策

○学生・保護者への周知が弱いのご指摘に対して、私たち教職員は本校の理念や教育方針に対して、自信をもって学生、高校生、保護者、地域の人々に働きかけていくことが必要だと思います。具体的には授業、行事、社会貢献活動、広報活動の中でひとりひとりの教職員が自分の持ち味を活かしてメッセージを発信していきます。



### 2 学校運営

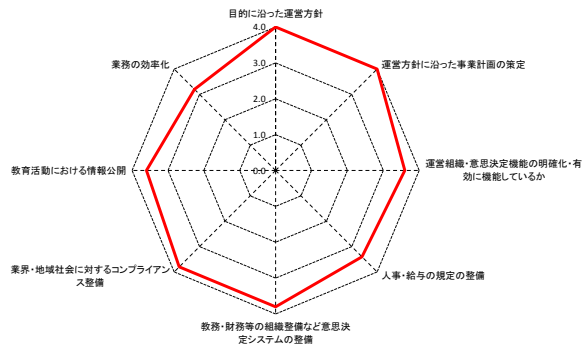
	4	3	2	1	平均
目的に沿った運営方針	5	0	0	0	4.0
運営方針に沿った事業計画の策定	5	0	0	0	4.0
運営組織・意思決定機能の明確化・有効に機能しているか	3	2	0	0	3.6
人事・給与の規定の整備	2	3	0	0	3.4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備	4	1	0	0	3.8
業界・地域社会に対するコンプライアンス整備	4	1	0	0	3.8
教育活動における情報公開	3	2	0	0	3.6
業務の効率化	1	4	0	0	3.2

#### ・委員による意見

- 職員の処遇改善は、そのまま学生・社会へつながる職員のモチベーションアップと大変関連が深く今後も更なる現実的な対応を望みます。
- 情報公開を効果的に行うのは永遠の課題です。更なる展開を望みます。
- 教職員の意思疎通やコミュニケーションが良好であることが感じられます。

#### ・改善策

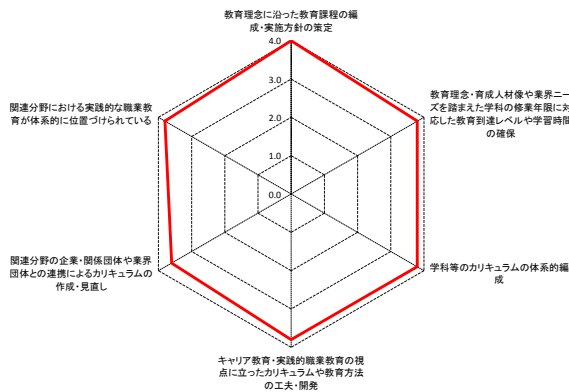
○職員の待遇改善については、理事者側との意思疎通を増やし、理解を求め、教職員がもっている力を最大限に発揮できるように働きかけていきます。  
○業務の効率化について今まで経験値でやってきたことが多く、マニュアル化されていない面を反省し、事務主任、教務主任を中心に業務のシステム化を進めていきます。



### 3 教育活動

#### (1) 教育課程

	4	3	2	1	平均
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針の策定	5	0	0	0	4.0
教育理念・育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保	4	1	0	0	3.8
学科等のカリキュラムの体系的編成	4	1	0	0	3.8
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発	4	1	0	0	3.8
関連分野の企業・関係団体や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し	3	2	0	0	3.6
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられている	4	1	0	0	3.8



・委員による意見

- 他の教育・養成機関に比べ、重厚な課程となっており、頼もしく思う反面、学生が疲れていないか心配になります。学生を実習に送り出す先とのコミュニケーションは非常に大切なので、これからも尽力願えれば幸いです。
- 学校を拠点とし、様々な地へ赴き、体験できるカリキュラムが良い
- オリジナルティーのあるカリキュラム(多数の施設見学・交流、自然体験)が魅力的であると思いました。

・改善策

●本校のカリキュラムの体験重視は引き続き継続していくとともに、関連分野の企業・関係団体との連携によるカリキュラムはまだ不十分であると認識しています。そのため、各学科において連携企業・団体との具体的な連携内容を見直し、連携企業・団体の意見を反映させたカリキュラムづくりをしていきます。

(2) 指導・評価

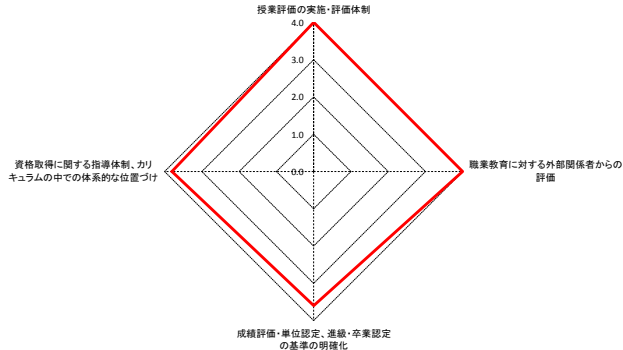
	4	3	2	1	平均
授業評価の実施・評価体制	5	0	0	0	4.0
職業教育に対する外部関係者からの評価	5	0	0	0	4.0
成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準の明確化	3	2	0	0	3.6
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ	4	1	0	0	3.8

・委員による意見

- 日々、ご努力されていることと拝察致します。
- 単位や時間数の表に「計」の覧が無いので、加筆が必要であると思いました。

・改善策

○成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準の明確化はかねてよりの懸案でした。本年度はこの基準の案を作成し、教職員の意見も反映させながら基準づくりを推し進めていきたいと思っています。



(3) 教員・研修

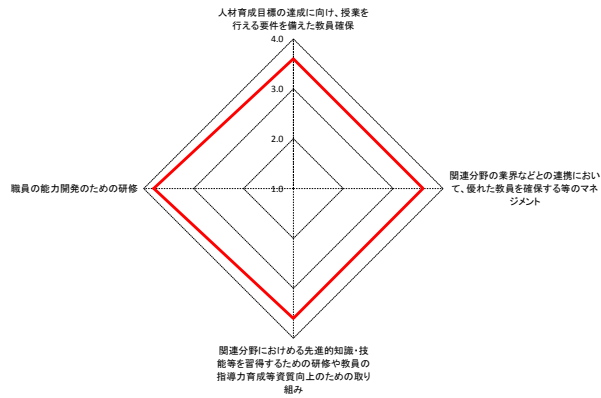
	4	3	2	1	平均
人材育成目標の達成に向け、授業を行える要件を備えた教員確保	3	2	0	0	3.6
関連分野の業界などとの連携において、優れた教員を確保する等のマネジメント	3	2	0	0	3.6
関連分野における先進的知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組み	3	2	0	0	3.6
職員の能力開発のための研修	4	1	0	0	3.8

・委員による意見

- 教員の質的レベルアップは、そもそもご本人の資質に加え、現場での学び、外部とのつながりの中での学びにそのポイントがあるように思います。ご多忙な中ですが、学校外の「財産」との交流を深めて頂ければ幸いです。
- 職員の数が増えれば全てまかなえるとは限らない。限られて人数の中で取り組みができるよう話し合いの時間を持てると良い。
- 教員の多忙状況が精神的にも肉体的にもストレスが感じられるような状況が生まれるよう期待致します。

・改善策

○教員確保については文部科学省「厚生労働省の基準もあり、毎年苦労しております。教員確保・研修とも関連団体の協力も仰ぎながら、進めていくことが必要と考えております。



4 学修成果

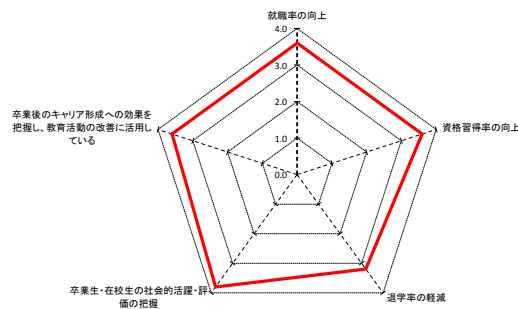
	4	3	2	1	平均
就職率の向上	3	2	0	0	3.6
資格取得率の向上	3	2	0	0	3.6
退学率の軽減	1	4	0	0	3.2
卒業生・在校生の社会的活躍・評価の把握	4	1	0	0	3.8
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育活動の改善に活用している	3	2	0	0	3.6

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 日々のご努力に敬服しております。更にお進めなさるよう折念しています。
- 充実した資格取得が行われるような配慮が見られました。

・改善策

○退学者の軽減については、多様な学生のニーズに対応する指導への転換が求められていると認識しています。そのため、余裕のあるカリキュラム、卒業要件の緩和、卒業要件と資格取得の分離等を試みております。



5 学生支援

(1) 支援体制

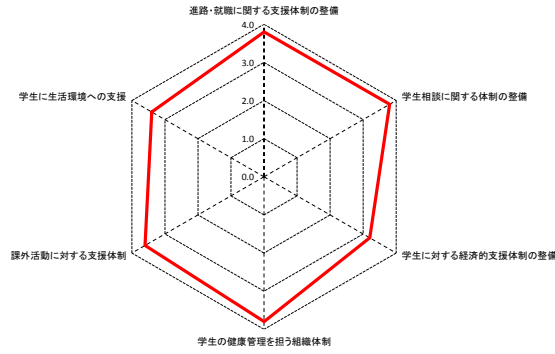
	4	3	2	1	平均
進路・就職に関する支援体制の整備	4	1	0	0	3.8
学生相談に関する体制の整備	4	1	0	0	3.8
学生に対する経済的支援体制の整備	1	4	0	0	3.2
学生の健康管理を担う組織体制	4	1	0	0	3.8
課外活動に対する支援体制	3	2	0	0	3.6
学生に生活環境への支援	2	3	0	0	3.4

・委員による意見

- 一つの学校だけでは支援も限られてくるので、各種制度業の有効活用を含め、様々な情報提供に、これからもご尽力いただきたい。
- ボランティア活動に熱心に参加できるような体制づくりがとて望ましい。
- 課外活動の種類や数は、学生の意志が大きく関わるものですが、充実した課外活動が展開されることを期待致します。

・改善策

○学生の中には向学心があっても経済的理由のために入学・進級を諦めざるを得ない学生もいるのは事実です。今後、各企業と連携した特待生制度の新設、保育士・介護福祉士修学資金や母子家庭など自立支援制度等の公的支援制度の周知・活用を推進していきたいと思ひます。



(2) 連携体制

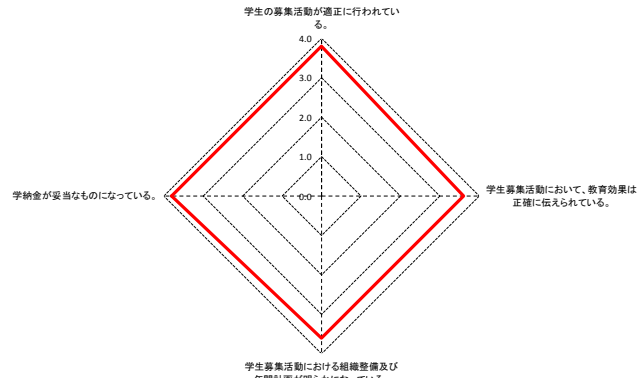
	4	3	2	1	平均
保護者との適切な連携	4	1	0	0	3.8
卒業生への支援体制	4	1	0	0	3.8
社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備	4	1	0	0	3.8
高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組	3	2	0	0	3.6

・委員による意見

- 高校の先生方における、福祉・介護に対する認識不足と違和感・嫌悪感には、いまだに思ひだしいものがあるようです。ここが専門学校の強張りどころでは無いでしょうか！

・改善策

○保育・福祉・介護に関する認識不足はご指摘のとおりと思ひます。また、専修学校が大学より劣るといった見方もあることも事実です。本校は50年近い歴史を有し、大学と同程度の教育を有して専門的な教育を行っていること、保護者懇談会・リカレント講座・高等学校等との地域連携の推進を積極的に行っており、それらを周知すべく努力していきたいと思ひます。



6 教育環境

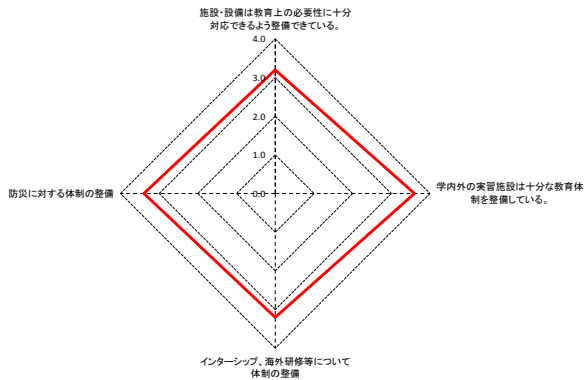
	4	3	2	1	平均
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備できている。	1	4	0	0	3.2
学内外の実習施設は十分な教育体制を整備している。	3	2	0	0	3.6
インターシップ、海外研修等について体制の整備	1	4	0	0	3.2
防災に対する体制の整備	2	3	0	0	3.4

・委員による意見

- 環境整備は常に財政とのバランスで、大変ご苦勞なされている事と存じます。そこをハードよりソフトでカバーしたいものです。加えてハードでしょうかね。
- 体験型が多く、身体で覚えていく内容がとて良い。
- 施設の整備を学生・地域のボランティアの協力でベンキ塗りなど簡易な作業を行うなどで、訓路専門学校に愛着を持ち、仲間意識や通学のモチベーションが上がる可能性も有るかも知れません。(アイデアの一つです)

・改善策

○施設の老朽化については、引き続き行政に支援を働きかけていくとともに、学生や地域のボランティアの活用は現実的な提案として選択肢の一つとして考えていきます。海外研修などはグローバル化が進む現在必要性は認識しており、法人全体としての課題として受け止めていきます。



7 学生の受け入れ募集

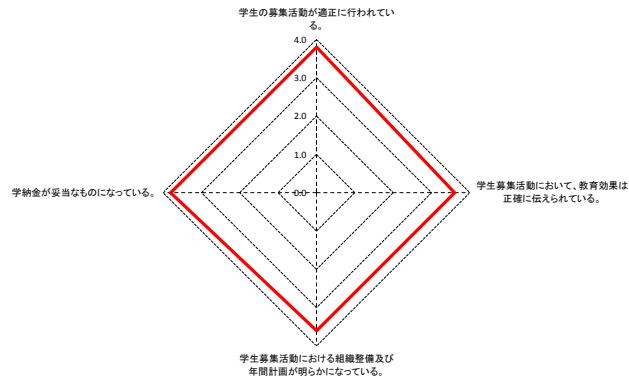
	4	3	2	1	平均
学生の募集活動が適正に行われている。	4	1	0	0	3.8
学生募集活動において、教育効果は正確に伝えられている。	3	2	0	0	3.6
学生募集活動における組織整備及び年間計画が明らかになっている。	3	2	0	0	3.6
学納金が妥当なものになっている。	4	1	0	0	3.8

・委員による意見

- 入学希望者を増やすための多角的な検討をする中で、良好な状況を得る努力を継続していただきたいと思います。
- 年々減少傾向にあるが、企業との連携をとりながら、増につなげていただきたい。

・改善策

○入学者の減少に歯止めがかかっていない現状に頭を痛めております。本校は他の専門学校にはない大学の併修校ではない多くのメリットがあります。それは学費が余分にかからず、短大と同じ教育が受けられる。レポートやスクーリングなどが無い、など他の学校では絶対真似のできないことです。これらを整理して釧路だけではなく、北海道内をマーケットとして情報発信していくことが必要と考えております。



8 財務

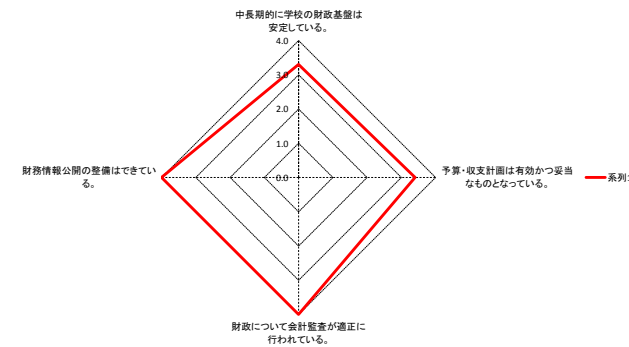
	4	3	2	1	平均
中長期的に学校の財政基盤は安定している。	1	3	0	0	3.3
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。	2	3	0	0	3.4
財政について会計監査が適正に行われている。	4	0	0	0	4.0
財務情報公開の整備はできている。	4	0	0	0	4.0

・委員による意見

- どの視点からも厳しい現状だろうと認識します。すべてのスタッフが心一つにして、ご努力なされることを祈念します。

・改善策

○学生数の減少により、支出を見直し、効率的な運営が求められており、教職員一同最小限の費用で最大限の効果を生むよう工夫や改善に努めております。



9 法令の遵守

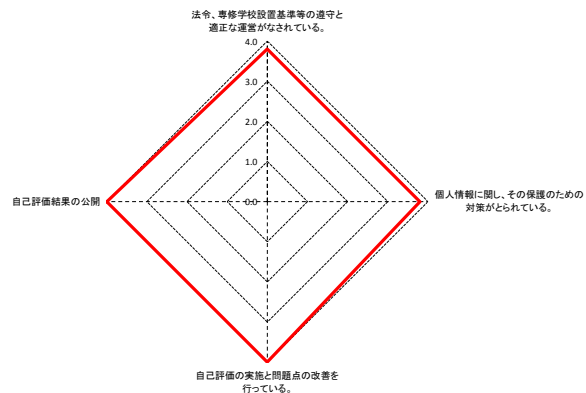
	4	3	2	1	平均
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。	4	1	0	0	3.8
個人情報に関し、その保護のための対策がとられている。	4	1	0	0	3.8
自己評価の実施と問題点の改善を行っている。	5	0	0	0	4.0
自己評価結果の公開	5	0	0	0	4.0

・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- お続け下さい。
- 昨年度との比較をグラフにして分かりやすい。改善や到達度UPにつながっている。職員の方々のご努力が反映されていると感じました。
- 文科省、厚労省の指標を丁寧に読み、理解し、遵守していることが伺えます。

・改善策

○昨年度の北海道による指定保育士養成施設の指導調査に続き、本年度は介護福祉士養成施設指導調査が行われます。また、来年度は教員養成機関の再課程が行われる予定であり、法令遵守については引き続きしっかりと対応していきたいと考えております。



10 社会貢献・地域貢献

	4	3	2	1	平均
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている。	4	1	0	0	3.8
学生のボランティア活動を奨励、支援している。	4	1	0	0	3.8
地域に対する公開講座等を積極的に実施している。	4	1	0	0	3.8
教育訓練の受託等を積極的に実施している。	4	1	0	0	3.8

・委員による意見

- 何も言うことがありません。すべてに素晴らしい。今後ともよろしくお願い致します。
- 今後も継続していただきたい。
- 公開講座で地域の大学等と連携した取り組みを少しずつ拡大する姿勢を続けて頂きたい。
- 社会貢献の自己評価が高いので、地域とのつながりの中に色々悩んでいることを解決するヒントがあるかも知れないと感じました。

・改善策

○社会貢献・地域貢献については高い評価をいただき、光栄に存じます。現状に甘んじることなく、社会のニーズにあわせて環境・教育研究センター、付帯事業部といった学校全体の組織をあげて取り組んでいきたいと思っております。

●その他の課題に対する委員からの意見

- 今一つの専門学校が閉じようとしている今、当校の社会的使命は益々大きなものになっていきます。学生は学内だけではなく、この地域全体で育てるもの。
- 「職業実践専門課程」認定校として魅力あるカリキュラム作りに努め、社会で希望を持って職に就ける学生の育成を応援しています。
- ある学校関係者、学生、保護者は笑っている、楽しそうだ、生きがいをもって日々過ごしている。そんな評価をいただけたら、大変嬉しいですね。内と外で磨き合い、光る、そんな教育・養成機関であっていただきたい。私も微力ながらお手伝い致します。

